

議 長 次に、受付番号第2号、井上栄一君の一般質問を許します。登壇願います。

3 番 井 上 議長のご許可を得ましたので、一般質問をいたします。よろしくお願いいたします。受付番号第2号、質問議員、第3番 井上栄一。件名、駅周辺整備事業について。

要旨。本山町政2期目就任後の新年度予算であり、1期目で種をまいた事業を2期目において公約等に基づき施策を実現されることと思います。そこで、町長の公約にもあり平成30年度の予算に計上されていますが、町の活性化のために最も重要な事業であります駅周辺の整備事業の今後の実施計画や事業の進捗の見込みについて、町長のお考えをお聞かせください。よろしくお願いいたします。

町 長 それでは、井上議員の御質問にお答えをさせていただきます。新松田駅周辺地域は、古くからJR松田駅や小田急新松田駅を中心に市街地が形成されてきたため、これまで十分な広さの駅前広場や道路が整備されず、周辺に交通混雑を発生させている状況であります。用途地域が指定されていますが、店舗と住宅が混在しており、平屋建てや2階建てが多く、敷地の高度利用がされてなく、また近年、駐車場を中心とした低・未利用地が点在し、にぎわいのある商業環境の形成への影響が懸念されているところでもございます。また、平成26年度に松田町第5次総合計画まちづくりアクションプログラムを策定するに当たり、町民アンケート調査を実施させていただいたところ、小田急新松田駅北口の状況について74%の方が、「やや不満」「不満である」と回答され、整備の必要度については47.4%の方が「とても必要」と回答し、「多少必要」と回答された28.2%の方と合わせると75.6%の方が整備が必要であるとの結果が示されました。

そこで、平成27年12月に新松田駅周辺まちづくり協議会を設立し、会長に学識経験者として建築やまちづくりに広く活躍されている大学教授をお迎えし、土地・建物の権利者、自治会長さん、商工観光団体、鉄道・バスなどの公共交通事業者、さらには神奈川県からは県西地域県政総合センター、県西土木事務所、松田警察署様からも御参加をいただき、年2回開催し、多方面の方々から御意見をいただいているところでもございます。また、協議会の開催に合わせ

まして、公共交通の関係、商工観光の関係の方々との意見交換を行う部会を別途実施し、協議会での検討課題や資料作成に取り組んでいるところでもございます。

さらに、平成28年度から平成30年度までの3年間で、新松田駅周辺整備基本構想・基本計画を現在策定しているところでもあります。平成28年度では問題点や課題を整理するため、駅周辺の7カ所で、平日・休日の各1日12時間の交通量調査及び駅広場4カ所にて調査員による聞き取り調査での利用者アンケート、さらにはインターネットを活用したウェブアンケートでの調査を実施し、今後の整備に向け広域的な視点から見た実態調査を行いました。平成29年度では、前年度の取り組みの中から駅周辺のまちづくり将来像として、「足柄上地区の玄関口 賑わい・活力を生み出すまちづくりの実現」を目指し、5つの方針を掲げ進めております。1つ目は交流・活力を促進する交通拠点の形成。2つ目は魅力・にぎわいの創出。3つ目は安全・安心なまちづくり形成。4つ目は環境・景観・地域資源を生かしたまちづくり。5つ目はITの高度化に対応した施策の展開であります。現在、この5つの方針に基づき基本構想を検討しており、平成29年の8月の「広報まつだ」に概略の構想図を掲載させていただいたところであります。

次に、この5つの方針をハード面から考えるまちづくりとソフト面から考える付加価値を向上するまちづくりに大きく分け、検討を行っております。まずは、ハード面から考えるまちづくりは、駅前広場・共同施設・周辺道路について施設の配置検討及び概略規模の算定、駅前広場区域の設定及び整備計画、主用建築物の概略を検討するとともに、概算事業費、事業手法、事業手順の検討、導入する補助制度を検討を行っているところでございます。ソフトによる付加価値を向上するまちづくりにおいても、町なかの回遊ネットワークの形成や再生可能エネルギーの活用、IoTの活用をした施設整備など、ITの高度化に対応したまちづくりの取り組みについても検討を行っております。

さて、御質問にあります今後の実施計画の事業の進捗の見込みでありますが、平成30年度では現在検討している内容につきまして、まちづくり協議会や県、警察などの行政機関、公共交通事業者と協議をし、全体基本計画を策定し、

概算事業費の算定、次年度計画策定、事業化に向けた整備手法の調整による財源の確保などの整理を行い、土地・建物権利者の方々との再度の意向調査を踏まえ、議会及び住民全体に広く意見を求め、基本構想の合意形成を図ってまいります。その後、完成した基本構想が権利者の方々や議会の皆様方、多くの町民の皆様方に御支持をいただくことができれば、その構想を基本計画として活用し、平成31年度から法的手続や現地調査・測量に入り、平成32年度より実施設計をスタートするために神奈川県警察本部との詳細な交通協議を実施し、平成34年度より順次、用地取得や物件補償などを行い、平成35年度より工事の一部着手に入りたいというふうに考えております。

現在、進行中であります新松田駅周辺の整備事業は、町民のみならず近隣市町からの利用者も多く、足柄上地区の交通の要衝としてふさわしい環境整備が求められております。鉄道駅を中心として、地域間ネットワークをするバス交通の利便性を図ることで、鉄道も含めた公共交通の利用促進が進み、町全体の交通環境の向上や活性化につながっていくことが期待されます。利便性の高い魅力ある駅周辺環境の創出は、若年層を初めとする新たな人口獲得や、人の集積による地域の既存商店環境の活性化など、町を支える人の確保につながります。魅力ある都市づくりは、町のブランド力を高め、定住者や企業に選ばれる町として成長していくことが重要であります。今後は、人口減少社会の中で、将来にわたって持続可能な町としてあり続けていくために、充実した公共交通環境という強みを生かしながら、都市マスタープランで掲げた将来像である「人・まち・コトを繋ぐまち」の実現を牽引する中心拠点として、新松田駅周辺整備に取り組んでまいります。以上でございます。

3 番 井 上 答弁ありがとうございました。そこでですね、今後の実施計画ということでお聞きをしたいと思います。昨年ですか。新松田駅周辺地域まちづくり基本構想のですね、途中報告だと思いますけれども、そういった策定状況についてはですね、報告をいただきました。この中でですね、やはり区域的に、地域的には新松田…この基本構想のタイトルのとおりですね、新松田駅周辺ということで、その場所的にはですね、大体、今、新松田駅から大坂屋さんぐらいまでがですね、そういう地域だというふうな説明をいただいたというふうに思ってい

ます。また、その後ですね、多少変わっているかもしれないんですけども、そういった地域的な部分の中で、やはりですね、今、町長が言われましたように、やはりこの計画というのは、足柄上郡の玄関口となる、足柄上郡だけでなくですね、足柄平野の北の玄関口だということです、松田町の中心地の整備だと思えます。

それであるならばですね、やはり整備計画として、小田急線沿線を見ますと、海老名からですね、厚木、伊勢原、秦野、渋沢、新松田はおきまして開成というところで、やはり市・町の中心をですね、鉄道によって分断をされているという中ですね、中で、駅周辺の整備事業というのをやっているというふうに思えます。その中で、今、答弁にありましたように地域をですね、もう少し広げてですね、例えば仲町屋からですね、地区名で言いますと仲町屋地区、新松田地区、沢尻、中沢地区というふうな区域における整備事業、または駅で言いますと新松田駅の南口、あと新松田駅の北口、J R松田駅の南口とですね、北口ですか。あとはその周辺に位置する町有地としてですね、有効活用をすべきであろうと思います町営の臨時駐車場がございます。こういった地域において、やはり再開発事業としてももう少し枠の大きなまちづくり構想整備計画を策定すべきではないかと思いますが、いかがでしょうか。

まちづくり課長 お答えいたします。今、御指摘のございました、一番最初に説明しました中心拠点となる部分が駅を中心として、約100メートル範囲ということで、それはあくまで建物の共同化であるとか駅前広場の構想をするというところがございます。新松田駅周辺まちづくりの構想全体としては、約6ヘクタールの面積を検討しております。それはですね、今、御指摘のありました自治会を含めて、新松田駅南北、J R南北といった地域と、それに連結している道路網についてもあわせて検討しているところであります。以上です。

3 番 井 上 今のですね、課長の御答弁にありました全体として6ヘクタールの計画、道路網等の整備を含めてる計画というのはですね、まだ余り全体概要等はですね、ちょっと承知をしていないんですけども、どういった計画なのか、計画名称とかですね、計画策定の時期、完成の見込み時期等を教えていただけたらと思いますが。

まちづくり課長 計画の名称そのものは、今、委託で出しております、今、検討している新松田駅周辺まちづくり構想ということが大きな枠組みの6ヘクタールの枠組みでございます。それから中身につきましては、当然、今既存の、例えば南口でありますと、駅に隣接した用途地域がですね、住居系の用途であったり、それから駅前の北口広場周辺においても住居系の用途であったり近隣商業系の用途がでございます。そういったものの用途の見直し等も検討して、高度利用また商業施設として活性化を生むような用途指定にしていくとか、そういったことをあわせて今、検討しているところでございます。以上です。

3 番 井 上 ありがとうございます。この新松田駅周辺地域まちづくり基本構想の中です、全体として6ヘクタールの計画をですね、考えていくということで理解をさせていただきました。まずですね、どういったための整備事業なのか、どういうふうな基本的な考えによっていくのか。先ほど、町長の答弁にもありましたように、この事業はですね、消滅可能性都市としてですね、位置づけられた松田町が、やはり本当に住みやすい、活気のある、かつてのにぎわいのある、そういった松田町をですね、取り戻すための最終の重要なポイントではないかなというふうに思います。整備事業の中でですね、やはりこの松田町、現在は少子高齢化ということで3分の1の、人口の3分の1がやはり高齢者であるというふうな状況の中でですね、今後、どういう形でですね、意識で、整備事業についてですね、進んでいかれるのかという、単純に駅周辺整備をして利便性がある、にぎわいのある町だけだとですね、余り変わりばえがしないといえますか、そういった内容だけではなく、やはりその地域住民に松田町の住民にとってこれが必要なんだというふうなですね、整備事業の考え方がありましたらお聞かせいただきたいと思います。

まちづくり課長 それではですね、私どもが今、考えております構想の中ではですね、まず重要拠点であります駅周辺、特に駅前広場の整備というのは、まず1点目として欠かせないものであると考えます。駅前広場につきましては、先ほど、町長の答弁にありましておりバスターミナルとしての機能、また、にぎわいを創出するといった広場としての役目が空間を持つことによって交流人口、町外からお越しの皆様に対して、あ、松田こんなとこなんだねというようなものを出す

ような駅前づくりというのが当然必要になってくると考えます。

その次に、商業の活性化でございます。今、先ほども答弁にありましたとおり、土地利用の中では平屋建て・2階建ての商店が多うございます。そういったものの施設を1カ所に集中して、例えばビルにおさめるとか、やり方はいろいろあると思いますけども、そういった形で拠点施設を建てることによって商業の活性化につながるようにしていきたいと思っています。

そして、その商業の活性化に一番大事なものは、お金を使っただけの消費者の方をふやさなければ、幾らお店をたくさんつくってもですね、きれいなお店にしたり大きな店舗を誘致しても、それは商業の活性化につながらないというふうに考えています。駅前を中心とした場所に居住スペースを多く確保することによって、商業の活性化につながってくるのではないかとこのように考えています。

また、既存の住宅街の道路整備、先ほど御指摘のありました南北、分断されてる南北の自由通路であるとか、橋上駅舎であるとか、そういったことによる利便性を向上することによって長く住み続けたい、また、来ていただいたお客様に選んでいただけるような町にしていきたいということを考えております。以上です。

3 番 井 上 ありがとうございます。駅前広場整備の中でですね、先ほども小田急線の沿線の開発の中でですね、例えば海老名はですね、やはりあそこはですね、相鉄とJRと小田急線ですね。そういったものを含めた中で大分巨大なといえますか、大きい自由通路を持つ駅だと、市の開発だというふうにも認識しています。そういった中で、今、課長のほうから答弁がありましたように、やはりそういった空間、自由通路というふうな空間を持つこと、また商業のですね、発展のためにビル化、居住スペースもあわせたですね、そういった施設をつくるのがですね、重要だということは理解をさせていただきました。

例えばですね、今、町長の施策としては低炭素化ということの中で、さまざまな事業をですね、進めています。やはり、松田町を定住を促進する、ほかからのですね、人が松田町に定着をしていただくためには、やはりそういった環境面でのですね、開発も必要だというふうに思います。例えばなんですけれど

も、都市の低炭素化の促進を図る集約都市開発というふうな、いわゆるエコシティーというふうなですね、開発もですね、国土省のほうからもそういったモデルといいますか、事業名がですね、提言をされています。

そういった中で、今これからですね、構想を進めていく中でですね、やはり一番重要となるのは、町の財源、財政の問題だと、それが一番大きなですね、課題だと思います。財源が限りなくあればですね、どんな開発でもできると思いますけれども、自由通路というのはかなり費用もかかりますし、なかなかほかの事業者に対して、事業者とかですね、住民に対して負担金という形ですね、お金をいただくということが難しいような事業ではないかなというふうにも考えておりますので、やはりその辺は町のほうがどういうふうなですね、財源に対応する展望を持っていただけるのか、お願いをしたいと思います。

まちづくり課長 御質問の財源の確保等について御説明させていただきます。まず、事業そのものをですね、都市計画事業または国の施策に合わせた内容の事業展開をすることによって、社会資本整備総合交付金いわゆる国庫補助ですね、をいただくことによって、2分の1程度は国からの財源が確保できるということを考えております。そのほかにはですね、例えば共同施設・共同ビル等の建築に当たっては、一般論で言われております再開発ビル等であれば国の補助金をいただくこともできますし、組合設立において、組合員の皆様から共同出資による財源の確保といった形で、町の財源を確保していく、押さえることによって事業が展開できるのではないかとというふうに考えております。以上です。

3 番 井 上 今ですね、財源のほうで社会資本共同整備国庫補助金・共同ビル国庫補助金等をですね、説明いただきました。これらですね、全体条件としては、やはり今、町のほうでつくっています新松田駅周辺まちづくり基本構想というふうなですね、計画だけでですね、事業対象として国庫補助の該当になるのか、それともやはり再開発事業というふうな認定を受けた中でですね、事業認定を受けないとですね、国庫補助対象にならないのか、その辺をですね、今現在の見込みで構いませんので、お答えをお願いをしたいと思います。

まちづくり課長 幾つかのつくるものによってですね、補助金の該当が違ってきますので、駅前広場自体ですね、例えばバスターミナルであるとか、そういったタクシーブ

ールだとか、そういったことは比較的道路整備等の補助金のメニューもあります。そういったことを活用すれば、都市計画事業なのか道路メニューなのかというので、2個の補助金のメニューが該当になりますので、その辺については今後どちらかを採用していくのではないかと考えます。施設の共同化、ビルです、ね、につきましては、町単独でやる場合とか、先ほどありました都市計画事業で再開発ビルを建てる、もしくは民間のデベロッパーさんと町と協働による施工方法と、いろいろな方法がありますので、今そういったものも考えて事業をしているところでありますけれども、補助金を多く活用するためには、都市計画事業でやるのがいいのかなということもあります。ただ、都市計画事業だけでも補助金の率は今よくありませんので、それを稼ぐためには、例えば皆さん御承知の言葉でよく言いますコンパクトシティとか、そういった補助メニューもございます。それから、立地適正化法による補助メニューとか、先ほどおっしゃられてた再生エネルギーの補助メニューもございます。それから商業系の補助メニューもございます。そういうチャンネルを多く開くことによって財源の確保ができるというふうに、今検討しているところでございます。以上です。

3 番 井 上 ありがとうございます。それぞれの事業によってですね、今はさまざまなメニューがあるということで、その辺はもう少し計画が具体性を持った段階です、ね、またさらにそういった財源対策についてのですね、方向性が出るのではないかなというふうに感じています。

それではですね、もう1点ですね、先ほど町長の所信表明の中にもありました、県西地域活性化プロジェクト推進事業、その中で、所信表明の中でですね、駅周辺地域の広域的な将来構想及び拠点整備に係る計画を策定する事業で、足柄地域や県西地域へ普及させる機能を備えていく事業だというふうな説明がございました。これはですね、やはり先ほども松田町の駅周辺整備事業というのは松田町だけではなく、足柄上郡、足柄平野の玄関口としてのですね、重要な事業だということもですね、やはり町長もおっしゃっていたというふうに思います。その県西地域活性化プロジェクトは、これから予算説明があると思いますけれども、どのような主体で、どのような構成を考えてられるのか、わかる

範囲で結構ですので、お願いをしたいと思います。

参事兼政策推進課長 御質問にお答えします。県西地域活性化プロジェクトにつきましては、神奈川県と県西2市8町で地方創生推進交付金を申請してございます。その中で、松田町として何をやるかという、予算のときに説明させていただきますけれども、新松田の駅周辺の観光案内所ですとか、それから県西活性化プロジェクトにつきましては、一応、未病を改善するというキーワードがございまして、これに伴いましてビオトピア、大井町にございますビオトピアとの関連の案内板とか、それに伴います国際交流とかということを県西地域活性化プロジェクトの中で予算化をしております。

3 番 井 上 ありがとうございます。30年度の予算というのはですね、駅前案内所とかそういう看板の設置ということで理解はできました。ただ、ここに所信表明の中に書かれているというのは、やはり足柄地域ですね、やはり玄関口としての整備が重要であり、足柄上郡の首長さんもですね、やはり新松田駅の…松田駅周辺の整備事業に対してはですね、大変関心があるというふうに思っているところでございます。その中でですね、30年度はこういった事業で進めていくんですけども、やはりそこを起点としてですね、今後、先ほどまちづくり課長のほうからもありましたような、周辺の整備事業にですね、それを松田町単独で進めていくのではなく、2市8町とは言いませんけれども、1市4町もですね、巻き込んだそういった政策、方向性が必要だと思われそうですが、その点についてお伺いをしたいと思います。

参事兼政策推進課長 新松田の開発につきましては、それは以前からお話は出ております。使うのは松田町の方のみならず大井町、それから開成町、南足柄市、そういうところの方が多く使われるという想定はございますけれども、なかなか駅があるからといって大井町から、じゃあ予算をよこせとか…予算を計上してくれという、なかなかそれは難しいことだとは思いますが、ですが、足柄上の5町での話もございまして、それはその中で皆さんでもんでいければいいのかなというふうに考えております。

3 番 井 上 ありがとうございます。もちろんですね、この地方創生に絡む事業としてはですね、そういった進め方しかないのかなというふうに思いますけれども、や

はりほかの町にですね、すぐに負担金出してくれ、補助金出してくれと
ですね、はい、じゃあ出しましょうというほどですね、今の各町のです
ね、財政状況というのは楽ではないというふうには考えています。そう
ではなくてですね、やはり、例えば県のですね、ほうとの調整、国のほう
との調整もですね、松田町単独でこの再開発事業を進めるということ
ではなく、やはり近隣周辺の自治体も賛同をしてくれる、進めること
にですね、協力をしてくれる。それはお金だけではなく政策的な部分
でもですね、協力をしてくれる。そういったものを調整するためにも
ですね、やはり先ほどの県西地域活性化プロジェクトを将来的にです
ね、進めていく必要があるというふうに考えますが、この辺について
はですね、なかなかもう地方創生が終われば、そういった事業が
終われば終わりに終わってしまうのか、それとも、もう少しそういう
方向性を持って進めることの可能性あるのか。その点については
いかがでしょうか。

参事兼政策推進課長 地方創生をきっかけとして、これからいろんなことを進めてい
きたいとは考えております。また、先ほども申しましたように足柄上には足柄上
広域行政協議会というのもございますので、その中で話題で取り上げてい
けばよろしいのかなというふうに考えております。

3 番 井 上 その辺は、町は町でですね、そういった整備事業基本構想を進めてい
くと。周辺のですね、市町に対してもですね、今、政策推進課長がおっ
しゃられた方向性を持ちつつですね、理解を図っていくということ
でよろしくお願いをしたいと思います。

次にですね、先ほどまちづくり課長の説明の中にもですね、バスターミナル
の整備があります。また町長のほうでもですね、バス…町長の答弁の中
にもですね、バスを車だけの、車といいますか乗用車・自家用車だけの
交通手段ではなく、バスを、バスの利用を中心としたですね、交通の
整備というふうな答弁もございました。その中でですね、今、小山町
の話にちょっと飛んでしましますが、小山町では県とですね、小山町
で60ヘクタールという工業団地の、名称的には内陸フロンティア
整備と言ったと思いますけれども、それを行っています。今も
ですね、小山町へはですね、就業者の通勤で富士急のバスを使
った利用をされているというふうに聞いています。

それで、60ヘクタールというですね、内陸フロンティア整備が終わった段階では、小山町で聞いた話ではですね、JR御殿場線の輸送力の増強というのは見込めないというふうな話を聞いています。そうするとですね、やはり60ヘクタールの中で2,000人とも3,000人ともですね、小山町外からですね、そういった就業者を確保しなければいけないというふうにも聞いていますので、松田町がですね、やはり交通の結節点である。小田急線・御殿場線・東名高速道路というふうなところのですね、地の利を生かした中において、先ほどの駅周辺整備事業の中にもですね、例えば本厚木の駅の周辺にですね、バスターミナルがあります。あれはちょっと立体化したですね、駐車場も含めたようなバスターミナルでありますけれども、松田町としてですね、やはりこういった契機をですね、考えた中で、そういったインフラをですね、松田町として整備をするお考えはあるのか。また、それらに対しましてですね、秦野市と小山町で、それは新東名高速道路の開通を契機にした提携をしたというふうな新聞報道もありました。松田町としては、そういった対小山町の内陸フロンティア整備に対する政策なり考え方としてですね、バスの乗降を含めたですね、ターミナルのインフラの整備するお考え、また今後のですね、見込み等はあるのか、それをお伺いいたします。

まちづくり課長 バスターミナル等のことについて御回答させていただきます。現在、新松田駅においてはですね、2社の路線バスの会社が入って、箱根登山と富士急さんが入っております。1日の運行本数がですね、新松田発だけのバスで191本、現在出発しております。ということは、おおむねその数だけは今度戻ってきてというふうに考えます。路線数で言いますと35路線を抱えている、バスターミナルの駅としては35路線を抱えているような駅でございます。今、御指摘のあります小山町に関してはですね、路線的には富士急さんの多分、路線バスの範囲であるかと思えます。開発等が進んだ中で、例えば路線的に、路線バスとして発着が見込まれるのであれば、富士急さんのほうが、例えば新たな路線として増便をしていくのではないかと考えます。そういったものも今後の計画の中で、今、御指摘をいただいておりますので、小山町さんにどういった考えがあるのか、またそういった場合に富士急さんはどういう対応をしていくのか。現在

でもですね、駅のそばの操車場のところでは、小山の工業団地の中にシモンズさんという会社があると思いますけれども、シモンズさんに向けてですね、朝2本定期路線として発着をさせていただいているところでもあります。それから、中には、あとはですね、小田原のアマゾンにですね、今現在も操車場から発着をしていると。企業系の送迎につきましては路線バスではございませんので、自社の敷地の中からの発着が多うございます。路線を持つる場所については、路線の私どもが整備するバスベイから出ていただくことは可能だと思います。そういったことも含めて、今後、施設の概要とか広さについて検討したいと思います。以上です。

3 番 井 上 ありがとうございます。やはりですね、今のようにバスですね、乗降場所と駅が近接をしているとですね、やはりそれは、もうバスを降りたらそのままですね、電車に乗ってしまうというふうな形にしかならないと思います。やはり、もう少しですね、松田町を回遊をしていただくためであればですね、より商業ですね、発展等に松田町のにぎわい、経済効果をもたらすのではないかなというふうにも感じています。

そういった中でですね、どういうふうにそういった場所をですね、見つけていくのかということもですね、大切だと思いますし、小山町の内陸フロンティア整備というのは、やはり新東名のですね、開通の2020年をですね、目途に今、進めているというふうに聞いています。それにはなかなか今からですね、やる事業としては間に合わないかもしれませんけれども、やはり今後ですね、小山町のそういった情報収集を図りですね、町長はですね、小山町の込山町長とも懇意であるというふうにも聞いていますので、ぜひですね、そういった中で、例えば場所的には全く私の勝手な考えでありますけれども、例えばJRのですね、北側にあります町営臨時駐車場等をですね、全体を整備することによって、バスの発着場ともできるのではないかなというふうにも考えています。その辺のですね、情報収集とか将来性に向けてはですね、ぜひ、御努力をいただきたいというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

最後になりますが、やはり最初、町長のほうからも答弁がありました。その中でですね、やはりなぜ松田町がこういった再開発事業、駅周辺整備事業をや

るのかということに対しての、やはり町長ですね、松田町の活性化のため、松田町の住民のため、商業活性化のためというふうな御回答は理解できるところでありますけれども、やはりもう少しですね、例えば、先ほどエコシティーとかですね、コンパクトシティーのような話が出ました。町長の中でですね、一番、今後の駅周辺開発事業に対しての思い入れがありましたらですね、ぜひここで伺いをさせていただきたいというふうに思います。

町長 この件に関しては、基本的には2つあります。1つは、やはり町民のニーズが昔から高いというようなことですね。について、やっぱりお応えをしなきゃいけない。ただ、それがすぐすぐできるものでないので、一つずつの積み重ねでできているというようなことです。あとは、先ほど来お話がありますように、この足柄地域において、この駅が2つあって交通の要衝としてこれまで発展してきた、この松田町というものには、やはり歴史的な背景の中で、やっぱり役割がしっかりあるんだろうなというふうに、私なりに考えております。ですので、その中で、これはもう私の感覚なので、いろいろずれてるところもあるかと思いますが、松田町がよくなるためには、周りがやっぱりよくなるないと松田町は僕はよくなるれないというのは、いつも私の中では思ってます。ですので、うちが何かやるときには必ずほかの首長さんたちにも相談をしたりだとか、一緒にやりませんかという話はよくしますし、その中で、皆さん方が今、私的にはもうバランスがとれてる首長さんたちが一緒にこういった格好で広域的に、この地域を守らなきゃいけないという責務の中でやらせてもらってるなというふうな思いがありますので、松田町単独でやってるという意識は少しずつ解消されつつありながらですね、この、先ほどちょっとお話しありましたように、県と2市8町と一緒にやっていくというようなものは周りの首長さんたちも御理解いただかないと、この県西活性化プロジェクトの中に、この事業が組み込んでもらえない事業ですので、そういったことは皆さん方も共通の認識だというふうに思っております。

そんな中、やはり持続可能というふうなお話がありますし、全てにおいてなくなるわけにもいきませんので、今どきで言うと、横文字でSDGsと言われてるSustainable Development Goalsというなのもありますけれども、本当に

これからもやらなくちゃいけないことを絵画的にというか総論的にやるんじゃないくて、ちゃんとゴールを決めて一つずつ進めていかなきゃいけないというふうなこともありますので、町民の方々がですね、ずっとずっと松田町に住んでると足柄全体を中心とした駅がしっかりでき上がって、遠くとまで言いませんけども、すぐ隣にある小山町さんともつながり、小山町さんでは雇用を確保していただける。しかし人がいない。我々は住んでもらいたいけど仕事がないというようなこともありますから、仕事と住むところと、面で、全体で広げていくような地域ができれば一番いいということは、もう小山の町長さんとも我々全体、近隣の首長さんとも共通の認識でありますので、今後そういった観点でですね、松田町が、松田町がというようなことではなく、この皆さん方に取り組みでもらえるような駅周辺の整備事業をこれからはさらに煮詰めてつくってまいりたいというふうな思いでお話をさせていただきます。以上です。

- 3 番 井 上 ありがとうございます。昨年ですね、町長選挙のときの公約の中でですね、やはり明示的に着工平成35年というふうなですね、タイミングを出された首長さんは本山町長が初めてだと思います。今言われたですね、周りがよくならなければですね、松田町はよくなっていかないというのは、やはり小規模のですね、小規模の人口面積の松田町にとってですね、本当に松田町だけではなく、この足柄地域がですね、やっぱり一体となってそういった動きを持っていかなければいけないというふうに理解をさせていただきました。ぜひですね、今後ともやはり平成35年に向けたですね、積極的な、町長の中で多分この事業というのは、一番大変な事業でもありますし、重要度がある事業であるというふうに理解をさせていただきました。今後ともですね、その辺を中心な事業を組みながらですね、松田町の将来をですね、お願いをしたいと思います。

以上で私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

議 長 以上で受付番号第2号、井上栄一君の一般質問を終わります。

暫時休憩いたします。休憩中に昼食をとってください。なお、午後は1時より再開をいたします。 (11時15分)